

高知県公立大学法人

平成29年度 業務実績評価書

平成30年8月

高知県公立大学法人評価委員会

## 第1 評価の基本的な考え方

高知県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、高知県公立大学法人（以下「法人」という。）の平成29年度における業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の当該事業年度における業務の実績及び自己点検・評価を内容とする業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて、「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

### 1 項目別評価

評価委員会は、次の事項（以下、大項目という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を勘案して、5段階により評価するとともに、その評価理由を明らかにする。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事後の外形的な進捗状況の評価を行う。

#### 〔大項目〕

- ①-1 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置
  - 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置（高知県立大学及び高知短期大学）
- ②-1 同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置（高知県立大学）
- ③-1 同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置（ " ）
- ①-2 同上 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置（高知工科大学）
- ②-2 同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置（ " ）
- ③-2 同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置（ " ）
- ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
- ⑤財務内容の改善に関する事項を達成するための措置
- ⑥自己点検及び評価並びに情報公開等に関する目標を達成するための措置
- ⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置

[ 5段階]

- 5 : 中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
- 4 : 中期計画の達成に向け順調に進捗している。
- 3 : 中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。
- 2 : 中期計画の達成に向け進捗がやや遅れている。
- 1 : 中期計画の達成に向け進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

高知県公立大学法人評価委員会委員

| 区分  | 氏名    | 役職名               |
|-----|-------|-------------------|
| 委員長 | 宮田 速雄 | 株式会社高知新聞社 代表取締役社長 |
| 委員  | 森下 勝彦 | 株式会社高知銀行 取締役頭取    |
| 委員  | 木村 靖二 | 東京大学 名誉教授         |
| 委員  | 寺田 覚  | 公認会計士・税理士         |
| 委員  | 濱中 俊一 | 高知工業高等専門学校 校長     |

## 第2 評価の結果

### 1 全体評価

高知県公立大学法人は、高知県立大学と高知短期大学の自主性・自立性を高め、社会が求める教育・研究の高度化に対応するとともに、大学の個性化を進め、もって大学の社会への貢献を促進することと併せ、大学運営の効率化及び第三者評価に基づく運営の改善など、県民と社会に対する説明責任を果たすことを目的として、平成23年4月に設立された。

平成27年4月には、公立大学法人高知工科大学と法人統合を行い、高知県立大学、高知工科大学及び高知短期大学の3大学を一つの法人のもとで運営することで、それぞれの大学の特性を生かしながら、大学間連携をより進め、教員や学生の相互交流の拡大などにより、より幅広く、質の高い教育研究や地域との連携、産学官連携などの取組を進めている。

平成29年度は、法人統合を行って3年目であり、第2期中期目標期間の初年度でもある。この間、理事長及び学長のリーダーシップのもと、教育、研究及び社会貢献に関し積極的な取組を進めるとともに、業務運営の改善及び効率化についても、法人全体で推進している。

特筆すべき成果としては、高知県立大学においては、博士前期課程の共通科目の設置など大学院教育の改革を行うとともに、科学研究費助成事業について積極的に応募を行い、研究機関別新規採択率で全国3位、公立大学で2年連続で第1位(43.1%)という高い採択率を記録したこと、高知県の健康長寿政策の実現に寄与するため、外部資金を活用して「退院支援事業」を開始するとともに、平成27年度から実施している「高知県中山間地域等訪問看護師育成講座」を拡充したこと、南海トラフ地震を視野に入れた防災・減災活動を、県・市町村等と連携して積極的に実施したことなどが挙げられる。

高知工科大学においては、カリキュラム改編により厳選した主要科目を、原則として1限目から3限目に配置し、これにより、4・5限を活用して、学群が提供する実験・演習や学生の自主的な学修活動を充実させる環境を整えたこと、社会で活躍できる人材をより多く輩出するため、大学院進学への促進施策を推進した結果、大学院入学者が前年度比約19%増加したこと、研究アドバイザーの指導に基づき、外部資金獲得に取り組んだことで、科学研究費助成事業の研究機関別新規採択率が過去最高の全国6位(39.8%)を記録したことなどが挙げられる。その他の項目についても、全体として年度計画を十分に実施していると認められる。

## 2 項目別評価

|   |    |                             |
|---|----|-----------------------------|
| ①-1 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>(高知県立大学及び高知短期大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け<br>順調に進捗している |
|---|----|-----------------------------|

### ○実施状況の概要及び評価

学士課程においては、共通教養教育科目を精選・整理統合して新カリキュラムを編成するとともに、社会の変化に対応できる能力を有する人材を養成するために、各学部の専門教育の内容を見直した。

学術研究戦略委員会及び教育研究戦略課を設置し、国の施策や公立大学協会等の情報を収集するとともに、学内の情報を積極的に発信した。また、平成 30 年度の I R (Institutional Research) 指標の運用開始に向けて検討を行った。

大学院課程では、各研究科の博士前期課程の学生が学ぶ共通科目を新たに設置するなど、教育課程の改革を行った。

教育の国際化に関しては、平成 28 年度に設置した国際交流センターの活動により、留学生の受入れ・派遣がセンターの設置前と比較して大きく増加した。また、各学部において、英語による教育の充実に努めた。

学生に対する就職支援については、セミナーや説明会のほか、学部特性に合わせたガイダンス等を年間を通して実施した。また、高知県と協働し、県内企業を対象とした企業研究セミナーやバスツアー、高知工科大学との共催による公務員業務セミナー等を新たに実施するとともに、教職員が県内企業を訪問することで、大学への求人の促進と情報収集を行った。

学生の受入れについては、オープンキャンパスや高校教員説明会等において多くの受験生、教員等を集客するための戦略的・積極的な広報に取り組んだ。

高知短期大学においては、発展的解消に伴う学生数の減少に対応しつつ、在学生一人ひとりの状況と学習ニーズに対応し、充実した教育を提供した。

その他の事項についても、新設された永国寺図書館の充実、学生の健康管理活動の支援など、教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|   |    |                             |
|---|----|-----------------------------|
| ②-1 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>(高知県立大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け<br>順調に進捗している |
|---|----|-----------------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

新設した学術研究戦略委員会を中心に、部局の枠を越えた学術交流や、学外との交流、共同研究に取り組んだ。

外部資金の獲得について、科学研究費助成事業に全学的に積極的に応募し、研究機関別新規採択率で全国3位、公立大学では2年連続で第1位(43.1%)となったほか、学内の体制を強化し、外部資金に関する迅速な情報共有など、戦略的な取組みを推進した。

その他の事項についても、重点研究課題や新たな研究事業、地域の課題解決に向けた研究活動に積極的に取り組むなど、全体として研究の質の向上に向けて着実に取り組んでいることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|   |    |                             |
|---|----|-----------------------------|
| ③-1 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>(高知県立大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け<br>順調に進捗している |
|---|----|-----------------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

健康長寿センターは、高知県の健康長寿政策の実現に向けて、高知医療センターをはじめとする関連機関と連携した活動を展開した。また、外部資金を活用して平成27年度から実施している「高知県中山間地域等訪問看護師育成講座」を拡充するとともに、新たに「退院支援事業」を開始した。加えて、南海トラフ地震を視野に入れた防災・減災活動を、高知医療センター・県・市町村等と連携して積極的に実施した。

また、高知県産学官民連携センター(ココプラ)と連携して大学のシーズを発信するとともに、県民、地域の課題やニーズに対応できるよう、高知県、市町村との連携体制の強化に努めた。

その他の事項についても、立志社中の活動の継続・発展、公開講座やリカレント教育、生涯学習プログラムなど、社会貢献の質の向上に着実に取り組んでいることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|   |    |                             |
|---|----|-----------------------------|
| ①-2 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>(高知工科大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け<br>順調に進捗している |
|---|----|-----------------------------|

### ○実施状況の概要及び評価

学士課程では、カリキュラム改編により厳選した主要科目を、原則として1限目から3限目に配置し、実験・演習や自主的な学修活動を充実させるための環境を整備した。また、専任教員の採用により、教員一人当たりの学生数が減少するなど、教育環境が向上した。

また、大学院進学を促進するため、6年間一貫教育の啓発活動を行うとともに、経済的支援等学修環境を整備することで、修士課程入学者は、前年度比約19%増加した。

修士課程では、学士課程と修士課程の一貫教育を強化するため、学士課程の各専攻に対応する修士課程のカリキュラムとコースの再編及び修了要件の見直しを行い、運用を開始した。

博士後期課程では、質の向上及び学生の増加を図るため、入試制度の見直しを開始するとともに、英語版ホームページを刷新するなど、大学情報の効果的な伝播に努めた。

グローバル人材の育成については、大学が定めた「グローバル教育の方向性」に基づき、英語カリキュラムを大幅に改編し、英語力の強化を図った。また、海外研修や短期留学の機会を提供し、学生の国際性の涵養に努めた。

学生に対する就職支援については、企業採用担当者を集めた大学説明会、業界研究セミナー、県内企業によるインターンシップマッチングセミナー、県内企業及び県との連携・協力による業界研究会等を開催するとともに、教職員が一体となった学生への個別指導を行い、高い就職率を継続している。

学生の受入れについては、高校教員向け大学説明会、オープンキャンパスや進学相談会の開催、県内外の高校訪問等により、幅広く情報提供を行った。また、新たにシステム工学群で高知県内生向けにAO入試を実施するなど、県内出身者の確保に努めている。

その他の事項についても、学生の経済的支援や課外活動の充実など、教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|   |    |                             |
|---|----|-----------------------------|
| ②-2 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>(高知工科大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け<br>順調に進捗している |
|---|----|-----------------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

最先端の研究活動を行う総合研究所の組織を発展的に改編するとともに活動を評価し、次年度の方向性を決定した。また、新学術分野を取り扱うフューチャー・デザイン研究所の設置を行った。

若手研究者を中心とした学内研究交流会（YSS）、高知県立大学及び高知大学医学部との医工連携交流会等学内外の研究交流を行い、新たな研究領域の開拓に努めるとともに、高知大学との科学研究費助成事業の共同申請及び採択につなげた。

外部資金の獲得のため、研究アドバイザーの指導に基づき取り組んだ結果、科学研究費助成事業の研究機関別新規採択率が過去最高の全国6位（39.8%）となった。

大学が主催する国際シンポジウムを学内及び海外で開催し、国内外から研究者・学生が参加したほか、海外の大学との共同研究の実施や、教員・学生の海外での国際会議への参加など、国際的な研究交流を推進した。

その他の事項についても、学術情報の発信や図書館サービスの充実など、全体として研究の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|   |    |                             |
|---|----|-----------------------------|
| ③-2 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置<br>(高知工科大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け<br>順調に進捗している |
|---|----|-----------------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

地域連携機構を中心に、専門性に基づき、県内地域の課題解決に取り組んだ。

研究成果のマッチングを目的とした展示会等に出展することで、将来的に受託研究につながる案件の発掘につながった。

高知県産学官民連携センター（ココプラ）の活動に積極的に協力し、地域企業と大学等の連携強化など、ココプラの事業に幅広く関わった。

南海トラフ地震に備えて、津波の発生をキャッチするセンサーを県内に増設し、早期の避難行動など地域の災害対策の推進に貢献した。



その他の事項についても、小・中・高校生を対象とした訪問教育、県民向けの公開講座の開講など、社会貢献の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|                               |    |                       |
|-------------------------------|----|-----------------------|
| ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 | 評価 | 4：中期計画の達成に向け順調に進捗している |
|-------------------------------|----|-----------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

法人全体で課題や情報を共有し、運営方針の共通理解を図るとともに、各大学においては、学長のもと、大学の特徴を生かした運営を行った。

研究者人材データベース（JREC-IN）を活用し、優秀な教員を平成30年度配置に向けて採用決定したほか、事務職員については、引き続きプロパー職員の増加を図るため広く募集を行い平成30年4月採用者を決定した。また、外部研修機関が提供する研修等も活用してSD（スタッフ・ディベロップメント）活動に取り組んでいる。

その他の事項についても、法人全体で事務職員の人事異動や人事考課を行うなど、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|                          |    |                       |
|--------------------------|----|-----------------------|
| ⑤財務内容の改善に関する事項を達成するための措置 | 評価 | 4：中期計画の達成に向け順調に進捗している |
|--------------------------|----|-----------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

各大学において外部資金の獲得に向けた支援体制を充実させた結果、科学研究費助成事業の新規採択率では、県立大学が研究機関別で全国3位、工科大学が同6位になるなど高い成果を上げた。

財務システムの利用拡大により、予算執行状況の的確な把握に努めることで、年度途中で予算の再配分を行い、効果的な執行を行うことができた。

その他の事項についても、永国寺キャンパスの両大学の共有施設である図書館及び体育館の利用方法、ルール等を策定するなど、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|                                   |     |                       |
|-----------------------------------|-----|-----------------------|
| ⑥自己点検及び評価並びに情報公開等に関する目標を達成するための措置 | 評 価 | 4：中期計画の達成に向け順調に進捗している |
|-----------------------------------|-----|-----------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

各大学で自己点検・評価を行う委員会を設置したうえで検証を行い、大学運営に活かしている。

また、高知県立大学では、平成 27 年度認証評価における努力課題について、全て改善し、高知工科大学においても、平成 24 年度受審の認証評価における努力課題に対して、平成 28 年度に提出した改善報告書に係る大学基準協会の意見に対応して、学群等のカリキュラムポリシーの見直しに着手した。

その他の事項についても、法人及び大学の施設整備や教育研究活動などの情報発信を積極的に行うなど、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

|                            |     |                           |
|----------------------------|-----|---------------------------|
| ⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置 | 評 価 | 3：中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している |
|----------------------------|-----|---------------------------|

**○実施状況の概要及び評価**

3 キャンパスの施設及び設備の点検・調査を実施し、池キャンパスでは、中長期修繕計画策定の準備作業としての施設・設備の基礎的な調査を行った。

永国寺キャンパスの警備体制を見直すとともに、各キャンパスの喫煙箇所を削減した。防災マニュアルを改善するとともに、3 キャンパス一斉の災害対応訓練を実施し、課題を抽出した。

各種ハラスメントを防止するため、各キャンパスで相談体制を整備し、研修会を実施した。また、内部監査を行うとともに、前年度の内部監査意見に対して、必要な改善に取り組んだ。

その他の事項を含め、全体としておおむね順調に推移していると評価できる。

- 3 組織、業務運営等に係る改善事項等  
特に改善勧告を要する事項はない。